

花の美術館

花の美術館の、パステルカラーのコテージとそれに隣接する庭園は、19 世紀後半のフランスの印象派の絵画をモデルにしています。花の美術館は 2004 年の浜名湖花博の展示の一部だった頃から人気を保っています。

庭園が特ににぎわうのは、コテージの前の何千本ものバラが満開になる晩春です。ここには、250 品種を超えるさまざまなバラがあります。その一部は、メインの通りにかかる手の込んだ「バラの大アーチ」の装飾に使われています。その他のバラは、整備された花壇や植え込みに、色鮮やかなチューリップやコスモスに囲まれるようにして植えられています。この地域でバラの発育が特によいのは、気温が氷点下になることがほとんどない湖畔の気候のおかげです。

スイレンが浮かぶ広い池は、クロード・モネ（1840～1926 年）がジヴェルニー（フランス）の自邸の池を描いた絵にヒントを得たもので、6 月から 10 月には鮮やかなピンクや紫のスイレンが咲きます。この景観は池によく集まって来るカモなどの鳥によっていっそう美しくなります。